

# 令和2年度和歌山県文化賞

かん ざき りょう へい  
神崎 亮平

住 所 茨城県つくば市  
出 身 地 和歌山県橋本市  
生 年 昭和32年

## ◎ 業績及び経歴

昭和32年高野口町（現橋本市）に生まれる。昭和55年筑波大学を卒業。同大学大学院博士課程生物科学研究科にて理学博士号を取得。大学院修了後、アリゾナ大学神経生物学研究所博士研究員、筑波大学教授等を経て、平成16年から東京大学教授となる。

生物学者として、バイオミメティクス(生物模倣)を探究。生物知能の再現から、現在の人工知能を超えた、より人や環境にやさしい知能の構築に関する研究を進め、動物行動学、神経科学、遺伝子工学、ロボット工学、コンピュータ科学など広範な学際的アプローチにより、世界に先駆けて生物機能利用の研究を展開。スーパーコンピュータ「京」を用いて神経細胞からカイコガの脳の神経回路モデルを精密に再現。いわゆるサイボーグ昆虫による行動検証によって生物の機能を理解する、新たな工学分野を開拓してきた。その功績は国内外より高い評価を受けており、関連学会の学会賞のほか、イタリアのミラノビコッカ大学から名誉学位が授与されている。

また、研究活動に留まらず、人材育成のためのアウトリーチ活動も積極的に行い、150回以上にのぼる実験科学教室や講演会を全国の小中高等学校や特別支援学校で実施。平成28年度からは、東京大学先端科学技術研究センターの所長として、研究所の特徴である学際性を活用し、自治体との包括連携を通して地域社会の問題解決に取り組む「地域共創リビングラボ」や、誰も取り残されることのない環境を構築する「インクルーシブデザインラボ」の所内創設など、様々な事業を優れたリーダーシップのもと推進。このような活動は海外からも注目され、各国との国際協定に結びついている。

和歌山で育まれた「生かせいのち」の世界観のもと、課題が複雑化する現代こそ、柔軟で多様性のある解決法の重要性を説き、高い精神性と倫理性による「誰も取り残さない」課題解決の実現に向けて、世界に名だたる研究功績をあげ続ける氏は、まさに本県が世界に誇るべき存在である。

## ■ 現 在

・東京大学先端科学技術研究センター  
教授・所長

## ◆ 主な表彰歴等

- 平成8年 日本比較生理生化学会吉田奨励賞
- 平成15年 第2回つくばテクノロジー・ショーケースベストインデクシング（ベストアイデア賞）
- 平成20年 日本比較生理生化学会学会賞（吉田記念公演）
- 平成23年 アリゾナ大学昆虫科学センター（Insect Science Center）  
2011年 Distinguished Visiting Professor  
日本ロボット学会論文賞
- 平成24年 日本神経回路学会最優秀研究賞  
日本学術振興会（JSPS）ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞
- 平成27年 第2回HPCI（京）利用研究課題優秀成果賞  
橋本市文化賞
- 平成28年 東京大学工学部2015年度Best Teaching Award
- 平成31年 The University of Milano-Bicocca名誉学位